

自己評価報告書 学校関係者評価報告書

平成28年度

I 教育目標

- (1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神
- (2) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育目標
- (3) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育指導方針

II 重点目標の達成及び改善方策

- (1) 教 務
- (2) 指 導
- (3) 総務・渉外
- (4) 学 年
- (5) 事 務 局

III 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

IV 平成28年度 学校関係者評価委員会報告

I 教育目標

(1) 学校法人 愛知産業大学建学の精神

「社会から喜ばれる知識・技能を有し、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め科学技術文化の発展に貢献する」という学園の建学の精神は、創始者である水野恒治先生の目指す教育が凝縮されている。平成23年に「豊かな知性と誠実な心を持ち、社会に貢献できる人材を育成する」に改定されたが、根本精神は新しいものに踏襲されている。

(2) 学校法人 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育目標

- ① 生徒は、建学の精神をより身近な言葉で表した「誓いの言葉」を毎朝唱和することにより、その精神を実践する。
- ② 校訓「感謝」「礼儀」「誠実」「積極」「努力」のもと、学校を人格形成の場と位置付け、感謝の念に富み、礼儀正しく、誠実かつ積極的に努力する人材の育成に力を注いでいる。
- ③ 毎月月訓を定めて、生徒により具体的な目標として意識・実践させている。

4月「高校生の自覚」	}	1学期
5月「遵法」		
6月「誠実」		
7月「努力」		
9月「礼儀」	}	2学期
10月「積極進取」		
11月「読書」		
12月「感謝」	}	3学期
1月「希望」		
2月「反省」		

(3) 愛知産業大学三河高等学校全日制課程の教育指導方針

・学習指導方針

- ①学習に対する積極性を養うため「よく分かる授業」に心掛ける。
- ②教材の精選と基礎力の習得により「実力は努力から生まれる」をモットーに、やればできるという意欲を持たせるように努める。
- ③進路別、習熟度別学級編成により、きめ細やかな指導を行う。
- ④普通科は、国公立大学・難関私立大学・県内私立大学進学のために基礎学力の向上と大学入学試験に対応した実践形式演習を行う。
- ⑤電気科・情報処理科は、主要3教科の基礎学力の充実と、早期の取り組みによる専門教科の学力・実技力の向上を図る。

・生活指導方針

人間性の育成が最も大切であると考え、「周囲の人々から愛され、信頼される人間」の資質を作るために、

- ① 報恩感謝の念が強く、義務と責任をわきまえた誠実な生徒を育成する。
- ② 躰教育に力を入れ、マナーの良い生徒を育成する。
- ③ 部活動の参加を奨励し、明朗で幅広い人間性を備えた人材の育成に努める。

II 重点目標の達成及び改善方策

(1) 教 務

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none"> ・退学者数の減少を目指す。 ・基礎学力の向上を目指す。 ・進路指導の充実を図る。 ・就職学校斡旋1次内定率85% 内定率100%を目指す。 ・難関資格の取得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間退学者数23名(1.73%)。 ・ベネッセ実力診断テスト、実力判定テストDランク目標数値の達成できず。 ・進路指導室の活用が不十分であった。 ・国公立大学合格者数10名。健闘した。 ・過去最高の約92%を達成。面接スタンプラリーの成果である。 ・4年連続内定率100%を達成。 ・3年生の第二種電気工事士免許保有者68.6% 第一種電気工事士36名合格 第三種電気主任技術者1名合格 ・卒業時ITパスポート保有率は65%近い。 上位級の基本情報16%である。
改 善 方 策	
<ul style="list-style-type: none"> ・今まで以上に生徒動向に注視し、退学を未然に防ぐ指導を心掛ける。 ・寺子屋、家庭学習を積極的に推進、活用し、基礎学力の向上を図る。 ・本年度は過去最高の合格率と100%の内定率を達成した。生徒の実力をしっかり付けさせる(SPI試験・就職模試・面接練習等)指導を継続する必要がある。 ・1年次より、専門学校、短大に勝る4大進学の特長を伝える。 ・電気関係の補習時間短縮による学習方法の検討を考えていく。 ・一般クラスの専門科目離れを防ぎたい。基礎をしっかりと定着させて、上位級を求める心を養っていききたい。 	

(2) 指 導

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・身だしなみ指導・いじめ撲滅・携帯電話の使用マナー・ボランティア活動啓発・学校行事改革・外部団体、地域との連携・全国大会出場3部以上を目指す。・部活動入部率を6割以上を目指す。・地域活動に積極的に参加する。・生徒の心身の健康状態を的確に把握し、問題の早期発見・対応に努める。・組織的に健康観察、救急処置、健康相談、保健指導を行う。	<ul style="list-style-type: none">・毎日のST等を通じて繰り返し指導に努めた・line上で特定人物を書き込む事案があった。・個人情報管理がずさんで、なりすまし事件が発生。・献血者数 443名。 ペットボトルキャップ 159,246 個回収。・トンガ王国全権特命大使を招き講演を行った(文化祭)・岡崎市国際課、五井平和財団と連携協力。・アーチェリー部全国個人優勝。 ボクシング、少林寺全国大会出場。・運動部 51.3 %文化部 16.7 %全体で 68 %の生徒が部活動に励んだ。・毎定期試験終了後、地域清掃活動を実施した・教員と連携し、早期対応することができた。 受診の必要性の有無を判断し医療機関へつないだ。 生徒の自己管理能力の向上に努めた。・保健室頻回来室者や心理的要因を抱える生徒に対し、カウンセリングを勧めた。
改 善 方 策	
<ul style="list-style-type: none">・みだしなみ指導については、校長以下全職員が申し合わせ事項の理解を徹底させる。・劇団四季の鑑賞や、大使を招いての講演会が実施できたことは、関係団体の協力によるものである。今後も、生徒主体の企画運営をしていきたい。・生徒の状態を的確に把握するため記録を残し、対応を分析する。・インフルエンザに対する予防教育に努め、学級閉鎖をなくす。・保健に関する情報収集や研修に参加して専門性を高め、生徒対応に役立てる。・生徒の状況が悪化する前に、カウンセラーと生徒の面談を行う。	

(3) 総務・渉外

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・推薦入学生 400 名超を確保する。・一般入学生 1,000 名超を獲得する。・体験入学会の延べ生徒参加者数 1,200 名超を期する。・教室備品等経年劣化が進んでいる。不具合箇所の対処を円滑に進め教育活動に支障が出ないよう努める。・校舎内外の異常箇所の早期発見と報告・生徒募集に関する印刷物や DVD 等の完成時期前倒し。・外部への本校魅力発信	<ul style="list-style-type: none">・推薦入学生の目標数値をほぼ達成。・一般受験生の目標数値をやや下回った。・第 1 回体験入学 890 名、第 2 回 243 名、第 3 回 286 名、計 1,419 名参加・更新計画と予算認可により、教室等環境整備を徐々に進めている。・一部で報告が遅れ、破損発生日が不明の事例がある。・募集活動のスタート時期に滞りなく供給できた。・かわら版、コミュ、中日新聞社等を通し本校の魅力を発信できた。
改 善 方 策	
<ul style="list-style-type: none">・各中学校に対して、きめ細かい情報が提供できるように努めると共に、更に能力の高い生徒の入学を目指す。・各中学校との信頼関係の充実を心掛けると共に、より多くの受験生に選ばれる校風の確立に努める。・体験入学会等の様々な学校説明会の実施方法の改善に努め、更なる充実を図る。・職員室内外の整理整頓等、互いが気持ちよく快適に仕事ができる環境作りの意識を教員自身が高める。・校内特別教室等の責任者を明確にする。・本校の特色をしっかりとアピールしていきたい。又、「かわら版」レイアウトを刷新し、より明るいイメージで情報発信をしていく予定である。	

(4) 学 年

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・ 欠席率 2.0%以内を目指す・ 転退学者を防止する。・ 大学合格者数の目標数値達成。・ 愛知県知事技術顕彰受賞 150 名の達成。	<ul style="list-style-type: none">・ 全学年とも、目標以内の欠席率を達成した。・ 単位制への転籍を含めて、転退学者は出たが、各学年の目標数値は達成した。・ 国公立大学合格者数 10 名、大学合格者数 214 名 姉妹校進学者数 48 名・ 年間受賞者数 154 名。
改 善 方 策	
<ul style="list-style-type: none">・ 欠席防止の為に、『欠席者面談』を継続する。・ 転退学者防止の為に生徒の面談等を行い、極力減らすよう努力する。・ 保護者との連絡を密にすることで、情報を共有し、生徒指導や進路指導に役立てる。・ 家庭学習ノートなどで学習の習慣化を図り、実力のアップを図る。・ 受験対策講座や補習、そして校外模試の有効活用をする。・ 進学情報を積極的に活用する。・ 進学、就職面接指導の徹底指導	

(5) 事務局

重点目標	年度末評価
<ul style="list-style-type: none">・ 業務の効率化・分業化・平坦化を図り残業ゼロを目指す。・ 中学および高校とのデータ共有化を図る・ 愛産大工業高校と事務研修会を実施する	<ul style="list-style-type: none">・ 補助金申請業務は、県や保護者との調整があるため平坦化が難しい。・ データの共有化は問題ないが、中高一貫コースは、会計処理を行う上で注意を要する。・ 工業高校との日程調整ができず、今年度は実施出来なかった。
改 善 方 策	
<ul style="list-style-type: none">・ 外部申請書類の取り扱いは、県・保護者等外部との調整が必要になるので、その業務については、「分散による平坦化」を行い、短いタスクにより平坦化・効率化を図る。・ 工業高校との事務研修会は、早めに日程調整を進め、特に授業料に関する補助金業務についての理解を図る。	

Ⅲ 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・昨年の反省と改善方策を意識した学校運営・教育活動を一年間実施した。
各部署における評価はさまざまであるが、学校教育活動の中で、普通科の進学校化に伴う実績と電気科・情報処理科の安定的生徒数確保が喫緊の課題である。各担当部署に於いて、更なる努力と改善を加えてより良い学校運営を行い、私学として、建学の精神の具現化と具体的目標の達成が世間の評価対象になる事を意識すべきである。

その方策として、

- ①河合塾の受験対策講座、就職S P I 試験、リクルートスタディーサプリ等を活用した生徒の学力アップ
- ②生徒主体の生徒会活動の活性化
- ③進学・就職の出口指導の徹底
- ④地域に根ざしたボランティア活動の活発化
- ⑤計画的な施設設備の刷新
- ⑥斬新的な広報活動
- ⑦各種国家試験、検定試験の取得率、合格率の向上による専門的知識・技術の習得

等本年度示された課題について、来年の改善項目・改善方策として繋げていく。

Ⅳ 学校関係者評価委員会報告書

〔学校関係者評価委員〕

後援会会長	清水美之氏
後援会副会長	鈴木基夫氏
保護者会相談役	鈴木康史氏
市場町副総代	山路康貴氏
西尾自動車学校校長	宇井均氏

1 学校教育目標に対する意見

- ・三河高校の教育は、生徒指導・部活動・学習指導が柱である。一つの例として、朝、名鉄藤川駅で清掃を行っている、部活動で登校する生徒に挨拶をしていただく。一人の行動が全体の評価に繋がる。多くの人が見ていると言う意識で指導を今後もしていただきたい。又、保護者も子供が三河高校に通っていると言う意識をもっていただけたら有り難い。
- ・三河高校の教育が現在の子供の生活の中に生かされている事を親として感じている。今後も、親・子供・地域が三河高校を認めつつ、いろいろな角度から見ていく必要がある。

2 教務に関する自己評価への評価・意見

- ・基礎学力は社会に出るに当たって非常に大切である。但し、勉強が出来てもコミュニケーション能力がなければだめである。「学力+人間関係+しつけ」が求められるので、バランスよく指導していただきたい。
- ・電気科や情報処理科は、資格取得だけでなく、物づくりを中心とした大会やコンテスト等に打って出るようなことが出来たら良い。(例：ロボット大会)

3 指導に関する自己評価への評価・意見

- ・部活動を中心とした藤川駅の清掃や挨拶・礼儀作法及びしつけ教育そして、地元のイベントや祭りへの協力など、定着してきたように思う。

- ・部活動で頑張りたい生徒に対して、喜ぶような部活が他にあるのではないかな。
- ・部活動において、指導力やネームバリューのある人を連れてきて、生徒が目を輝かせて取り組むような体制が出来れば、もっと頑張れるのではないかな。
- ・三河高校の三十年を考えると、指導面ではとても良くなった。(制服の着方、靴の履き方)
- ・近年スポーツ選手の不幸事が出ているが、本来なら親が教えるべき事を出来ない以上、学校の部活動でしつけ指導をしていくしかないのではないかなと感じる。

4 進学指導に関する自己評価への評価・意見

- ・今後生徒が減少していく中で、普通科は進学校化で学力重視で取組まれているようであるが、それだけで生徒を絞って良いのだろうか。従来のようにいろいろな生徒に入学していただいて、その生徒の中で進学に力を注ぐ生徒がいれば、学校として最大限のサポートをしていただければ良い。部活でも進学でも子供がそれぞれに頑張れる環境を作ってもらいたい。

5 総務に関する自己評価への評価・意見

- ・子供が卒業すると学校に来る機会が少なくなるので、ホームページを通して活躍を目にする。

6 渉外に関する自己評価への評価・意見

- ・学力だけで生徒募集を行うと、短期間でその方向に変わるかと言うとそれは難しい。中学校の先生の今までの三河高校に対する意識や期待もある。

7 学年に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見はなく、取り組み及び自己評価は適切であると判断できる。

8 事務に関する自己評価への評価・意見

- ・特に意見はなく、取り組み及び自己評価は適切であると判断できる。

9 その他(全般)意見

- ・今年一年学校評価委員に任命されたので、いろいろな所から情報を得ながら、意見を言わせていただきたい。
- ・中高一貫生は勉強中心だが、しっかりとした挨拶指導等をなぜ行わないのかと疑問に感じる。
- ・近年の高校生は、大人しくなっている。①即答できない。②物が言えない。③前に立って言わない。④集団や周りと一緒にするのが苦手など、内向き志向になってはいないか。どんどん外に出ていくような施策をしていただきたい。
- ・高校生にどうやってやる気を持たせるか。工夫や情熱パッション、創造性を養わせる教育を行う事がこれから大切である。それを実行に移せるのが部活動である。自分を生き生きと表に出せ、自分で工夫し考えられる指導を行っていただきたい。
- ・集団行動が出来る、又、コミュニケーション能力を身につけるような指導をしていただきたい。
- ・教員の指導体制が充実しており、このような指導で生徒を育てると言う事をアピールする事が大切である。
- ・子供がなぜ三河高校に行きたいかが根本である。「三河に行くとこれが出来る」等、三河の売りを前面に出しての魅力発信がもっと必要である。